２０２５年度入学生

臨　地　実　習　要　領

【小児看護学実習】

茨城県立看護大学校

看護学科　３年課程

〒309-1703　茨城県笠間市鯉渕 6528
TEL　0296－70－5521
FAX　0296－70－5529

小児看護学実習

［2単位　90時間］

目的

子どもとその家族の生活を理解し、成長発達を支え、健康の保持・増進ができる看護実践能力を養う。

目標

1 対象の成長発達段階をふまえ、適切な看護を実践できる。
2 子どもの生活の場を知り、健康状態をふまえて、その子らしい生活を送る援助ができる。
3 子どもの尊厳と権利を尊重した援助が理解できる。
4 子どもと家族を取り巻く保健医療福祉・教育との連携を知り、多職種間における看護の役割が理解できる。

実習期間および実習時間

1 実習期間　　月　日（　）から　　月　日（　）　12日間
2 実習時間　9時00分～16時00分　　90時間

実習スケジュール例

実習1日目	実習2日目	実習3日目	実習4日目	実習5日目
(学内)2時間 実習オリエンテーション 施設別オリエンテーション	(臨地1日目)8時間 病院	(臨地2日目)8時間 病院	(臨地3日目)8時間 病院	(臨地4日目)8時間 病院
実習6日目	実習7日目	実習8日目	実習9日目	実習10日目
(臨地5日目)8時間 病院	(臨地6日目)8時間 病院	(臨地7日目)8時間 病院	(臨地8日目)8時間 保育所	(臨地9日目)8時間 保育所
実習11日目	実習12日目			
(臨地10日目)8時間 保育所	(学内)8時間 振り返り・まとめ			

保育所

目的

健康な子どもの生活と望ましい養育環境を理解し、成長発達を促す生活支援の方法を学ぶ。

目標

1 子どもの生活の場としての保育所の役割・機能を理解できる。
2 子どもの身体、精神、運動機能の成長・発達を理解できる。
3 子どもの思いに関心を寄せ、発達段階に応じたコミュニケーションをとることができる。
4 発達段階に応じた生活支援の方法を理解できる。
5 子どもの健全な育成を促すために必要な養育環境を理解できる。

実習期間及び実習時間

1 実習時期:　　月　　日(　)から　　月　　日(　) 3日間
2 実習時間: 9:00~16:00 (8時間×3日間)　　24時間

※実習中、当日のスケジュールに合わせてメモをとる。
実習3日目には、当日のスケジュールに合わせて 90 分程度記録の時間をとる。

内容

1 学習課題

1) 保育所の法的位置づけ、 遊びの意義と発達について、テキスト・授業資料・雑誌等を活用し、まとめる。
2)「発達段階に応じた成長発達の特徴と援助方法」を保育所学習課題用紙にまとめる。
3) 子どもとのコミュニケーション技術や日常生活援助技術(食事、排泄、睡眠、更衣・清潔等)を復習する。

2 実習方法

1) 事前に決定した日時に施設でのオリエンテーションを受ける。記録1に整理する。
(1) オリエンテーション内容
① 保育所の地域での役割
② 保育所の理念および規則
③ 園児について(各クラスの年齢・人数・保育方針)
④ 保育所の行事および日課
⑤ 施設の構造、設備および使用方法
⑥ 職員構成
⑦ 留意事項等
2) 保育所学習課題用紙は、実習初日に指導保育士に提出する。
3) 受け持ちクラスの保育活動に参加し、遊び・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活支援を行う。
4) 子どもの基本的生活習慣の確立状況、運動機能・言語・社会性・遊びの発達、健康教育、安全な環境(事故防止含む)について学べるように、園児の言動、保育士のかかわり、学生の実施、その他観察したことをメモに整理する。実習終了時に、本日の学びとして指導保育士に報告する。
5) 保育所の環境整備や行事の準備・実施・片付けに積極的に参加する。

3 カンファレンス

1）目的

子どものもつ力を引き出すかかわりと成長発達を促す支援を明らかにする。

テーマ:「基本的生活習慣の確立と子どものもつ力を引き出すかかわり」

2)方法

（1） 実習３日目に１時間以内で行う。

（2） 事前準備

テーマに沿った実習体験からの学びを記録2にまとめ、発表できるように準備する。

（3） 実施

記録2をもとに、学生1人ずつ発表し、学生、指導保育士、教員間で意見交換をする。

（4） 事後

事後課題:「カンファレンスを通して考えた成長発達を促す支援」を記録2にまとめる。

4 実習記録

1） 記録1(オリエンテーション)

2） 記録2(カンファレンス記録)

5 実習上の留意点

1）トレーニングウェア等の動きやすい服装にエプロンを着用する。フード付きの上衣は不可。

2） 上履き(ナースシューズ以外の清潔なもの)、戸外用運動靴、帽子を準備する。

3） 言葉遣いや挨拶など立ち居振る舞いには留意し、園児の見本になるよう努める.

4）健康には十分留意し、手洗いと含嗽により感染予防につとめる。発熱、下痢・嘔吐、その他流行性の感染症症状が生じた場合、また、周囲に感染症の人がいる場合や接触があった場合は直ちに指導保育士と教員に報告し対応する。

5）園児の安全を最優先し、危険を回避できるよう行動する。

6）実習中は、指導保育士およびクラス担当保育士の指示に従い行動する。

7） 昼食は園の給食を園児とともに頂く。3日分の合計金額を最終日に支払う。

病院

目的

健康障害のある子どもと家族を理解し、小児看護を実践できる基礎的能力を養う。

目標

1 対象の身体的・精神的・社会的な特徴を理解し、健康の保持・増進を目指した援助が実践できる。
1）対象の成長発達の過程および現在の成長発達段階を理解できる。
2）健康障害や入院・治療が対象の生活へ及ぼす影響を理解できる。
3）対象の看護の方向性についてアセスメントできる。
4）対象の日々の状態を判断し、健康の保持・増進に向けた計画、成長発達を促す計画を立案できる。
5）対象の反応にあわせた援助を安全かつ安楽に実施できる。
6）対象の状態や反応を振り返り、実施した援助を考察できる。
2 権利擁護の必要性を理解し、子どもを尊重した看護が理解できる。
1）実践を振り返り、子どもの力を引き出すかかわりが理解できる。
2）実習体験をもとに子どもを尊重した看護の必要性が理解できる。
3 対象とのコミュニケーションが図れ、援助関係を形成できる。
1）対象のおかれている状況や反応の意味を理解できる。
2）対象の成長発達段階や健康状態、反応にあわせたコミュニケーションをとることができる。

実習期間及び実習時間

1 実習期間：　月　日(　)から　月　日(　)
2 実習時間：8時30分から15時30分(8時間×8日間) 64時間
※14時00分から15時30分は記録整理の時間とする。

実習スケジュール例

臨地実習1日目	臨地実習2日目	臨地実習3日目	臨地実習4日目	臨地実習5日目
8時間 8:30～15:30	8時間 8:30～15:30	8時間 （病院）5時間 8:30～12:15 （控室）3時間 13:15～15:30	8時間 8:30～15:30	8時間 8:30～15:30
臨地実習6日目	臨地実習7日目	実習最終日		
8時間 8:30～15:30	8時間 8:30～15:30	（学内）8時間 8:50～15:50		

内容

1 学習課題

以下の課題をテキスト・授業での配布資料・課題レポート・看護雑誌等を活用し、まとめる。

1）子どもの権利（子どもの権利条約、医療における子ども憲章）
2）小児期の区分（乳児期・幼児期・学童期・思春期）と発達的特徴
3）各発達段階に応じたコミュニケーション技術
4）各発達段階に応じたフィジカルイグザミネーション
5）感染予防（こどもの抵抗力・免疫、予防接種）
6）発達段階に応じた事故防止（起こりやすい事故、環境整備）
7）プリパレーションの意義・目的と方法
8）障害をもつ子どもと家族の看護
（特に重症心身障害児の定義、医療的ケア、生じやすい健康問題）
9）受持ち患児の病態生理、一般的な検査・治療・看護（家族支援も含む）、成長発達の特徴

2 実習方法

1）1名の子どもを受け持ち、看護援助を行う。受け持ち患児は、臨地実習初日に選定してもらう。
2）臨地実習初日に病棟オリエンテーションを受ける。
3）外来実習
実習病棟において受け持ち患児がいない場合に、外来看護の実際を見学する。

3 カンファレンス

各カンファレンスに示す方法で、学生が主体的に進める。

1）ミニカンファレンス
（1）目的
受持ち患児の状態を把握し、援助に活かす。また、不明点や疑問を解決する。
（2）方法
① 実習2日目に、30 分以内で行う。
② 事前準備
援助を振り返り、発表できるようにメモ帳にまとめておく。
③ 実施
ア ②に沿って１人ずつ発表し、グループ内で意見交換する。
意見交換の後、臨地実習指導者・教員より助言を受ける。
イ 意見交換や助言をもとに実践を振り返り、以降の援助に活かす。

2）初回カンファレンス
（1）目的
対象の生活上の困難やおきていることの状況を整理し、看護の方向性（看護上の問題）を確認する。
（2）方法
① 実習4日目に1時間以内で行う。
② 事前準備
受け持ち患児の状態と考えられる看護の方向性を発表できるように、記録3をまとめる。
③ 実施
ア 受け持ち患児の状況と考えられる看護の方向性を発表する。
イ 意見交換を行い、臨地実習指導者・教員より助言を受け、次の援助に活かす。

3）終了カンファレンス

（1）目的

子どものもつ力を引き出すかかわりと子どもを尊重した看護のあり方について考え、小児看護の理解を深める

テーマ「実践を通して学んだ子どものもつ力を引き出すかかわりと子どもを尊重した看護とは何か」

（2）方法

① 臨地実習7日目に１時間以内で行う。

② 事前準備

テーマに沿った学びを記録5にまとめ、発表できるように準備する。

③ 実施

ア 実習体験からの考えたことを発表する。

イ 意見交換を行い、臨地実習指導者・教員より助言を受け、学びを深める。

4 学内実習

1）目的

小児看護学実習における学びを確認し、自己の課題を明確にする。

2）方法

意見交換・面接を通して、実習体験からの学びを言語化する。

3）内容

（1）実習での体験を振り返り、小児期に必要な看護を深める。

（2）記録5下段【実習を通して学んだことと今後の自己の課題】をまとめる。

5 実習記録

1）記録3　基礎情報・アセスメント

2）記録4　実習計画・実施記録

3）記録5　カンファレンス記録

6 綴る順序

1）記録1 オリエンテーション（保育所）

2）記録2 カンファレンス（保育所）

3）記録3 基礎情報・アセスメント（病院）

4）記録4 実習計画・実施記録（病院）　※日にちの早い順から順番に綴じる

5）記録5 カンファレンス（病院）

記録提出

「Ⅳ 実習の概要」を参照し、指定された日の＿＿時＿＿分に提出する。

実習評価

「Ⅵ 実習評価」を参照し、評価表に基づき行う。

小児看護学実習評価表

茨城県立看護大学校　看護学科3年課程

学籍番号　　氏名	実習施設	評定
	実習期間　　～	

		評価項目	学生	教員	自己評価2以下をつけた理由
人間関係形成能力	1	対象や周囲の人々と看護実践のための関係が積極的に築ける			
	2	対象や周囲の人々に与える影響を考えて行動できる			
	3	グループの中でメンバーシップ・リーダーシップを意識した行動がとれる			
看護実践能力	4	対象の成長発達の過程および現在の成長発達段階を理解できる			
	5	健康障害や入院・治療が対象の生活へ及ぼす影響を理解できる			
	6	対象の看護の方向性についてアセスメントできる			
	7	対象の日々の状態を判断し、健康の保持・増進に向けた計画、成長発達を促す計画を立案できる			
	8	対象の反応にあわせた援助を安全かつ安楽に実施できる			
	9	対象の状態や反応を振り返り、実施した援助を考察できる			
	10	対象の成長発達段階や健康状態、反応にあわせたコミュニケーションをとることができる			
	11	実践を振り返り、子どもの力を引き出すかかわりが理解できる			
	12	実習体験をもとに子どもを尊重した看護の必要性が理解できる			
	13	小児看護における看護師の役割を理解し、多職種との連携が理解できる			
	14	子どもの生活の場としての保育所の役割・機能を理解できる			
	15	子どもの思いに関心を寄せ、発達段階に応じたコミュニケーションをとることができる			
	16	発達段階に応じた生活支援の方法を理解できる			
	17	子どもの健全な育成を促すために必要な養育環境を理解できる			
専門職業人としての倫理観	18	専門職としての倫理観を持ち、責任ある行動がとれる			
	19	自己学習に意欲的・自律的に取り組み、看護実践に反映できる			
看護の探求	20	実習の学びと自己の課題を明確にできる			
評価合計点（100点）					教員印

〈評価尺度〉

5点：主体的にできる。要点を助言することによりタイムリーに追加・修正ができる、または十分に説明ができる

4点：指導を受けてできる、方向付けの助言をすることにより追加・修正ができる、または説明ができる

3点：かなりの指導を受けてできる。具体的な助言により、時間を要するが追加・修正できる、または口頭で述べられる

2点：かなり指導を受けても課題が残る、繰り返し助言を受けても追加・修正が難しい、口頭でも述べられない

評価基準に該当しないものは斜線（／）で表示し、点数化しない

小児看護学実習評価の視点

評価項目			評価の視点
人間関係形成能力	1	対象や周囲の人々と看護実践のための関係が積極的に築ける	□意見の違いや立場の違いを理解した話し合いができた □自分と周囲の関係性を理解し、主体的にかかわることができた □対象と援助的人間関係が築けた □とらえた反応の意味を考えることができた
	2	対象や周囲の人々に与える影響を考えて行動できる	□相手の立場にたって考え、適切な行動がとれた(患者、家族、指導者、メンバー、教員) □対象の言動から感じたことを反応の意味を確かめて、相手に伝えることができた
	3	グループの中でメンバーシップ・リーダーシップを意識した行動がとれる	□学習環境の特徴を理解し、状況に合わせた適切な行動をとることができた(患者や医療者の予定・都合を確認したうえで、自分の行動を調整し、報告・連絡・相談ができる) □ほかのメンバーの行動を把握し、自分の行動を調整できた □お互いに情報共有し、学習目標が到達できるよう協力できた □自己の役割を意識し、アサーティブなコミュニケーションがとれた
看護実践能力	4	対象の成長発達の過程および現在の成長発達段階を理解できる	□対象の身体的・心理的・社会的な成長・発達の特徴を考えて表現できた □身体的・心理的・社会的特徴から予測される状態を考えて表現できた □健康障害がもたらす成長・発達への影響を考えて表現できた
	5	健康障害や入院・治療が対象の生活へ及ぼす影響を理解できる	□対象に起こっている症状についてメカニズムを踏まえた考えを表現できた □疾病や症状、治療による生活への影響を考えて表現できた □健康障害や入院・治療に伴う家族への影響を考えて表現できた
	6	対象の看護の方向性についてアセスメントできる	□対象の看護を考えるために必要な情報を収集できた □科学的根拠に基づいておきていることの状況を解釈できた □科学的根拠に基づいて今後の予測が考えられた □対象に必要な看護を見出すことができた □要因を整理し、看護上の問題を考えて表現できた
	7	対象の日々の状態を判断し、健康の保持・増進に向けた計画、成長発達を促す計画を立案できる	□本日の看護援助を行う上で必要な情報を考え、収集できた。 □本日の対象の身体的・心理的・社会的状態を解釈できた □解釈したことから、必要な看護援助を計画できた □疾病の治療や健康の保持・増進に向けた看護援助を計画できた □現在の成長・発達段階を踏まえ、成長・発達を促す効果的な遊びや学習の支援が計画ができた
	8	対象の反応にあわせた援助を安全かつ安楽に実施できる	□計画をもとに、援助に必要な準備と確認ができた □健康状態に合わせた看護援助が、対象の反応を観察しながら実施できた □原理原則に基づいた看護技術が、対象の反応を観察しながら実施できた □成長・発達段階を考慮した効果的なコミュニケーションがとれた(説明、同意、言葉かけ) □成長・発達段階を考慮した援助方法を選択し、実施できた □成長・発達を促進するための遊びや学習への支援が実施できた
	9	対象の状態や反応を振り返り、実施した援助を考察できる	□実施した援助を客観的に振り返ることができた □実践結果から、現在の対象の状態を解釈・分析・判断できた □対象の反応から実施した援助の意味を考えることができた □成長・発達への支援の効果を科学的根拠に基づいて考えることができた □考察した結果をもとに、以降の計画や実施をタイムリーに追加・修正できた
	10	対象の成長発達段階や健康状態、反応にあわせたコミュニケーションをとることができる	□対象への関心をもって看護援助ができた □対象の発達段階を踏まえて、子どもとその家族のおかれている状況や心情を考え表現できた □対象の反応をもとに自己の振り返りができた □対象の発達段階に合わせたコミュニケーションをとることができた □対象の健康状態や反応に合わせたコミュニケーションをとることができた □対人援助関係の構築を目指し、効果的なコミュニケーションをとることができた
	11	実践を振り返り、子どもの力を引き出すかかわりが理解できる	□実施した援助を客観的に振り返り、表現できた □実施した援助の意味を子どもの力を引き出すための援助に関連付けて考え、表現できた □他者に伝わるように表現できた
	12	実習体験をもとに子どもを尊重した看護の必要性が理解できる	□実習体験から、倫理原則を踏まえた看護援助についての考えを表現できた □実習体験から、子どもの権利擁護についての考えを表現できた □他者に伝わるように表現できた
	13	小児看護における看護師の役割を理解し、多職種との連携が理解できる	□子どもと家族にかかわる専門職や保健、医療、福祉、教育との連携の中で看護師の役割について、実習体験から学んだ自己の考えを表現できた □小児看護における多職種との連携の必要性について、実習体験から学んだ自己の考えを表現できた
	14	子どもの生活の場としての保育所の役割・機能を理解できる	□法律や制度、施設の特徴を踏まえて、オリエンテーションを受けることができた □保育所の役割や機能、子どもの生活する環境について考え、表現できた
	15	子どもの思いに関心を寄せ、発達段階に応じたコミュニケーションをとることができる	□真摯な態度で子どもと接することができた □子どもの考えを聴き、理解するよう努めた(聴く態度、言葉かけのタイミングや問合い) □成長・発達段階を考慮した言葉遣いや説明、振る舞い(目線、態度、仕草)ができた □成長・発達を促進するコミュニケーションについて考え、表現できた
	16	発達段階に応じた生活支援の方法を理解できる	□幼児期の身体的・心理的・社会的な成長・発達段階の特徴を表現できた □基本的生活習慣の自立に向けた生活支援を子どもの発達段階を考慮し実施できた □発達段階から起こりやすい事故を予測し、安全に留意して支援できた □実施または見学した支援について、その意味を考え表現できた □具体的な行動を発達段階の特徴と関連させて表現できた
	17	子どもの健全な育成を促すために必要な養育環境を理解できる	□事故防止や健康管理についての取り組みについて、発達段階の特徴と関連させて考え表現できた □成長・発達を促進する設備について考え表現できた □家庭との連携やその方法について考え表現できた
専門職業人としての倫理観	18	専門職としての倫理観を持ち、責任ある行動がとれる	□学習者としてのコミュニケーション;臨地での学習を行うために必要なコミュニケーションが効果的にとれた(挨拶、報告、質問、言葉遣い、表情、振る舞い、など) □看護者としてのコミュニケーション;対象に関心を寄せ、看護援助を実施するために必要なコミュニケーションがとれた(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、表情、振る舞い、説明、同意を得る、など) □情報管理;個人情報保護や守秘義務を理解し、適切な行動がとれた □体調管理;自分本来の力が発揮できるよう心身の健康を維持する適切な行動がとれた(栄養、休息、生活リズム、感染症対策、ストレスコントロール、など) □決められた約束事を守り、誠実な態度と適切な行動がとれた
	19	自己学習に意欲的・自律的に取り組み、看護実践に反映できる	□知識や能力向上のための学習に必要な行動がとれた(質問する、相談する、資料を探す・調べるなど) □課題を意識して、計画的に学習をすすめることができた □自分の学習活動を客観的に振り返り、次の課題を具体的に表せた
看護の探求	20	実習の学びと自己の課題を明確にできる	□グループ学習(コミュニケーション、協力、多様な価値を受け入れる、意見をまとめる、タイムマネジメント、チームワーク、課題解決)を意識して、討議ができた □既習学習を用いて、実習体験を説明できた □自分の考えを論理的に整理し、筋道を立てて伝えることができた

小児看護学実習（病院）スケジュール表

	学習内容	学生の行動	提出物	臨地実習指導者の役割	教員の役割
前週	1 実習に必要な知識・技術の整理	1 事前学習課題および実習病棟の特徴的な健康障害の事前学習をする。 2 初日の行動計画を（情報収集計画を含む）立案する。		1 病棟スタッフへの説明と協力体制の整備 （受け持ち患児の選定）	1 受け持ち患児の選定を依頼 2 実習オリエンテーションの実施
臨地1日目	1 病棟の概要 2 対象の示す反応について観察・測定・面接の方法を用いた、援助に必要な情報収集 3 コミュニケーション技法を意識した関わり	1 オリエンテーションを受ける。 2 受け持ち患児・家族へ挨拶をする。 3 受け持ち患児・家族とのコミュニケーションをとおして情報収集をする。 4 記録を整理し、得られた情報から援助計画を立案する。	1 事前学習課題 2 記録3、4	2 病棟オリエンテーションの実施 3 受け持ち患児の選定 4 保護者との同意書の取り交わし 5 受け持ち患児への学生紹介 6 実施している看護の説明、解説 7 援助場面における、コミュニケーションや情報収集の仕方、援助方法の指導 8 援助実施後のリフレクション	3 受け持ち患児の選定 4 学生の行動計画の確認、指導 5 臨地実習指導者との連絡・調整 6 援助場面における、コミュニケーションや情報収集の仕方、援助方法の指導 7 援助実施後のリフレクション 8 記録指導
2日目～4日目	2～3同様 4 対象の状態を判断と必要な援助の決定 5 対象の反応に合わせた安全・安楽な援助の実施 6 実施した援助の考察 7 対象との援助関係の理解 8 対象の生活を阻害している要因の分析 9 看護の方向性の明確化	3、4は同様 5 実習計画を発表し、担当者の許可を得る。（毎朝、臨地実習指導者または担当看護師） 6 担当看護師から指導を受けながら、看護援助を実践する。また、検査・処置を見学・一部実施する。 7 実施した援助を振り返り、分析、検討する。 8 必要時、臨地実習指導者、チームメンバーへ報告・連絡・相談する。 9 実施したことや対象の反応、得られた情報等を記録に整理する。 10 〈2日目〉臨地実習指導者とミニカンファレンスの調整を行う。 11 記録は日々追加・修正する。 12 対象の様子や反応から、対象の状態を把握し、援助計画を立案する。 13 実施した援助の振り返りから、援助を考察する。 14 カンファレンス資料（記録3）を作成する。 15〈3日目〉午後は控室で記録整理を行う。 16〈4日目〉初回カンファレンスを学生主体で実施する。	3 前日の記録4 4 本日の記録4 5 記録3 〈4日目〉 7 記録3	6～8は同様 9 学生の行動計画の確認、指導 10 学生の行動計画に応じて、患児、担当看護師との調整 11 必要時、記録指導 12 カンファレンスでの助言、指導	4～8は同様 9 ミニカンファレンスの調整補助 10 カンファレンスで助言、指導
5日目～6日目	2～9は同様 10 看護の方向性をもとにした計画的な援助の実施（健康の保持・増進への援助、成長発達促進の援助） 11 対象の状態や反応を振り返りと実施した援助の考察	3～13は同様 17 初回カンファレンスでの学びを記録や看護援助に反映させる。	3～6は同様	6～12は同様	4～10は同様
7日目	2～5、7～11は同様 12 子どもの権利擁護の必要性と尊重した看護の理解	3～13、17は同様 18 終了カンファレンスを学生主体で実施する。	2～6は同様 7 記録5（カンファレンス前） 〈実習終了後〉 8 本日の記録4	6～12は同様 13 実習内容についての協議および評価	4～10は同様 11 実習内容について、臨地実習指導者との協議および評価

小児看護学実習スケジュール例

	臨地実習1日目	実習2日目	実習3日目	実習4日目	実習5日目	実習6日目	実習7日目	実習8日目	実習9日目	実習10日目	実習11日目
例①	病院実習 1日目 オリエンテーション	病院実習 2日目 ミニカンファレンス	病院実習／学内 3日目	病院実習 4日目 初回カンファレンス	病院実習 5日目	病院実習 6日目	病院実習 7日目 終了カンファレンス	保育所実習 1日目 オリエンテーション	保育所実習 2日目	保育所実習 3日目 終了カンファレンス	学内
例②	保育所実習 1日目 オリエンテーション	保育所実習 2日目	保育所実習 3日目 終了カンファレンス	病院実習 1日目 オリエンテーション	病院実習 2日目 ミニカンファレンス	病院実習 3日目	病院実習 4日目 初回カンファレンス	病院実習 5日目	病院実習 6日目	病院実習 7日目 終了カンファレンス	学内

(　　)歳児の成長・発達の特徴と関わり方　　学生番号

発達の視点	成長・発達の特徴	関 わ り 方
身体の発育状態 ・身長 ・体重 ・姿勢 ・運動能力 (粗大運動、微細運動、協調動作) ・歯の萌出　等	実習前に0歳から6歳までの成長発達の特徴について、それぞれ作成する。 実習中に受け持ったクラスの児の発達状態・関わり方を青字で追加する。	
日常生活行動の自立状況 (各生理機能の発達状態も合わせて) ・食事 ・排泄 ・衣服・更衣 ・身体の清潔 ・睡眠 ・整理整頓 等		
精神運動機能の発達状況 ・ことば ・情緒 ・認知 ・感覚 (視覚、聴覚) ・遊び ・集団行動 (仲間) ・母子関係・愛着		

地域での役割	
理念および規則	
園児について(各クラスの年齢・人数・保育方針)	
行事・日課	
施設の構造、設備および使用方法	
職員構成	
留意事項等	
オリエンテーションを受けての学び	

カンファレンステーマ:「基本的生活習慣の確立と子どものもつ力を引き出すかかわり」

事後課題 :『カンファレンスを通して考えた「成長発達を促す支援」とは』

<table>
<tr><td colspan="2">児　　歳　　か月　　性別：</td></tr>
<tr><td>診断名：</td><td>既往歴：</td></tr>
<tr><td rowspan="2">現病歴（発症～入院～受け持つまでの経過）</td><td>予防接種（済んでいるものに〇、接種回数を記入する）
Hib　肺炎球菌　B 型肝炎　ロタウィルス　4 種混合
2 種混合　ポリオ　BCG　麻疹・風疹混合　水痘
流行性耳下腺炎　日本脳炎　その他（　　）</td></tr>
<tr><td>利用している社会保障制度（保険・公費負担等）</td></tr>
<tr><td colspan="2">対象の状態と看護の方向性</td></tr>
<tr><td>疾患・治療</td><td>成長・発達</td></tr>
<tr><td>家族・キーパーソン</td><td>興味・関心（遊び・学習）：</td></tr>
<tr><td colspan="2">看護の方向性（看護上の問題）：</td></tr>
</table>

小児看護学実習　記録 4

茨城県立看護大学校　看護学科 3 年課程

日　曜日（受け持ち　日目）

学生番号

時間	本日の援助計画	計画の具体的な内容・留意点	実施した結果と状態のアセスメント、実施の振り返り
		＊健康の保持・増進への援助、成長発達を促進する援助計画 指導者印	
対象と関わりや気づき			

カンファレンステーマ
「実践を通して学んだ子どものもつ力を引き出すかかわりと子どもを尊重した看護とは何か」

【実習を通して学んだことと今後の自己の課題】